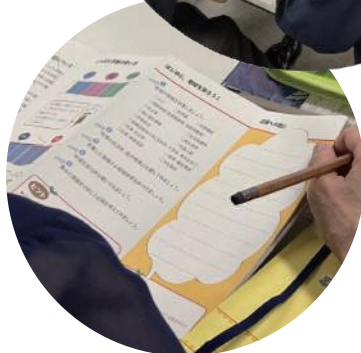


2024年度

なは市民協働大学院 事業概要書



主催：那覇市（まちづくり協働推進課）
業務受託者：NPO 法人地域サポートわかさ
連携事業者：（一社）災害プラットフォームおきなわ

ブログ「なは市民協働大学院」
フェイスブックページ

<https://nahabito2019.blogspot.com>
<https://www.facebook.com/nahabito/>



ブログ フェイスブック

なは市民協働大学院 2024 について

●事業目的

なは市民協働大学院2024は、地域課題の解決に向けた動きをつくり出すコーディネーター的人材の発掘・育成を目的としています。コーディネーター的人材とは、「地域の現状をしっかりと把握し、課題を発見・定義する視点を持った上で、地域に必要なプログラムをデザインし、その実現に必要な人材や組織をつなぐ(コーディネートする)ことで、地域課題を解決できる人材」です。本事業では、こうした人材に必要なスキルが学べるプログラム構成にしたほか、受講修了後に「地域コミュニティで活躍できる人材」「地域コミュニティをつなぐ人材」になるように促しました。

●コンセプト 「じっくり、しっかり、ちゃっかり」

なは市民協働大学院2024では、地域で「じっくり、しっかり、ちゃっかり」活躍できる人材の育成を目指しました。



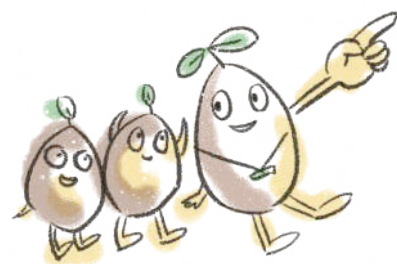
じっくり

地域の現状を鳥の目、虫の目でじっくり観察、把握して、地域の中に隠れた課題を発見できる



しっかり

発見した課題に対して、関係する人々をしっかりとつなぎ、しっかりした企画をきちんと実現できる



ちゃっかり

課題に真摯に取り組みつつも、周りのみんなとちゃっかり楽しんで、いつの間にかちゃっかり仲間を増やしている

●運営体制

なは市民協働大学院事業の受託者(NPO法人地域サポートわかさ)は、若狭公民館の指定管理者として文部科学省「第70回優良公民館表彰」において最優秀館に選ばれたほか、「復帰50周年・うちなー地域づくり大賞」特別賞、「国際交流基金地球市民賞」「琉球新報活動賞」を受賞するなど、ユニークな地域づくりの取り組みは全国からも高い評価を得ています。これまでの活動で得たノウハウを活用し、行政(まちづくり協働推進課)とそれぞれの特性を生かしながら協働で講座を企画、運営を行いました。

また、地域で活躍するNPOや各専門家、なは市民協働大学院OBOG等による応援団『チアーズ』を結成し、受講生を伴走しながら応援すると同時に、講座で企画したアクションプランがより実現性の高いものになるように助言や人材紹介などに取り組んでいただきました。

さらに、講座以外でも日常的に意見交換、情報共有が行えるようにFacebookやLINEのグループを作成し、事務局と受講生の距離を縮め、継続的な関係づくりや双方向のサポート体制づくりに務めました。



受講生の応援団 チアーズ

安谷屋貴子 | コミュニティ・オーガナイザー

内間直子 | EMS Okinawa/ミネコヤ

糸数貴子 | ななほしてんとうむし会

鎌田耕 | 那覇市協働によるまちづくり推進協議会

★城間幹子 | 新都心・縁(えにし)チーム

高原聡 | いちゃりば真和志

照屋りさ | たのしむぞ〜06(おろく)

萩原雄三 | なはまちサロン

松田敦子 | 高良小学校区まちづくり協議会たまご会

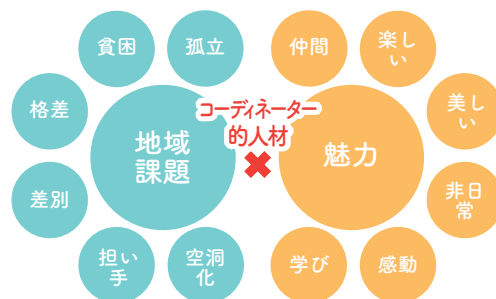
屋宜貢 | 那覇市大名小学校区まちづくり協議会

★は、Cheers チアリーダー

育成プログラム

●地域課題 × 活動の魅力

地域課題の解決には特效薬がないため、市民が主体的かつ継続的に取り組む必要があります。そのため、地域の現状を把握し、適切な課題設定を行うと同時に、取り組み自体を楽しみと思える魅力あるものにしなければなりません。受講生を、地域課題と活動の魅力をかけ合わせ、様々な資源をつなげることができる人材となるよう、そのために必要なスキルや考え方(じっくり・しっかり・ちゃっかり)を学ぶプログラム構成にしました。



●実践に役立つ教材活用

教材には『企画づくりのじゃばら手帳』と『協働の手引き』を採用しました。『企画づくりのじゃばら手帳』は、企画の着想からニーズの把握、プログラム作成、そして実施後の事業評価や検証までの思考の流れを整理されるようにデザインされており、『協働の手引き』は、課題解決に向けて動く際に必要となる“協働”の視点について学べるようになっています。講座終了後の実践に活用できる資料となります。



●不完全プランニングとプラスクリエイティブ

企画づくりで重要な視点について、テレビ番組「情熱大陸」や「世界一受けたい授業」に出演経験のある永田宏和氏をお迎えし、課題をひっくり返して楽しい取り組みに変えるコツについて学びました。地域で活躍する人を「風・水・土」に例えてお話いただいたほか、完全無欠の計画ではなく、みんなが参加できる余地のある「不完全プランニング」と活動を魅力あるものにするための「プラスクリエイティブ」をセットで考えることが重要であると学びました。



●共感を広げるコミュニティ・オーガナイズ

どんなに素晴らしい企画をつくったとしても実現させるには仲間が必要です。共感を広げ仲間をつくり、それぞれの特性を活かした「協働」によって企画を実現させるために「コミュニティ・オーガナイズ」の考え方や手法について学びました。講師の安谷屋貴子氏には、チアーズとしても関わっていただき、講座全体を通して伴走していただきました。



●修了後に繋がるネットワーク

講座は、受講生が活動している、または活動したい地域ごとにチームをつくり取り組み、修了後も活動が継続・連携しやすくなるように促しました。また、関係者へのヒアリングや講座内で各ステークホルダーを交えて企画のブラッシュアップを行うなど、企画の実現性を高めると同時に、修了後も活かせるネットワーク構築に努めました。



全体スケジュール

全8回の講座は、地域課題の発見から解決に向けた企画・運営の一連の流れについて、実行の直前段階まで順を追って学べるプログラム構成にしました。座学や実習をはじめ公開講座、合宿など、すべての要素が繋がり、より学びが深くなるように設計しています。また、講座時間以外でも、必要に応じて相談会を設け、受講生が内容を理解し、目標を達成できるように努めました。チアーズは、全体の進捗状況に応じて適宜会議を開催したほか、講座内で受講生への助言を行うなど、伴走しながら企画実現への後押しをしました。

受講募集



「チアーズ」会議および講座参加



相談会

目標設定	公開講座	6月22日(土) 14:00-17:00 なは市民協働プラザ	持続可能な地域づくりと人づくり・OBOGの活動 講師:大畑伸幸(元島根県益田市ひとづくり推進監)
		第1回	7月6日(土) 14:00-17:00 なは市民協働プラザ 開講式/オリエンテーション
調査	第2回	7月31日(水) 18:30-21:00 なは市民協働プラザ	グループ分け・地域調査と分析 講師:稲垣暁・宮道喜一(DMPO)
		第3回	8月20日(火) 18:30-21:00 なは市民協働プラザ 地域調査と分析・課題設定 講師:稲垣暁・宮道喜一(DMPO)
課題設定	第4回	9月24日(火) 18:30-21:00 なは市民協働プラザ	地域課題×活動の魅力 不完全プランニングとプラスクリエイティブ 講師:永田宏和
		第5回	10月5日(土) ~6日(日) 森の家みんな 企画づくり強化合宿&中間発表 森の指令ゲーム/ロジックモデル仮説評価/ 企画アイデア出し/カレー対決
企画	第6回	10月16日(水) 18:30-21:00 なは市民協働プラザ	共感を広げるコミュニティ・オーガナイズング 講師:安谷屋貴子
		第7回	11月5日(火) 18:30-21:00 なは市民協働プラザ 企画ブラッシュアップ/発表準備 プレゼンのコツ 講師:石垣綾音
具現化	第8回	12月7日(土) 14:00-17:00 なは市民協働プラザ	最終成果発表会/修了式

※上記日程以外に、9月10日に相談会、11月19日に自主ゼミ(いずれも任意)を設けたほか、必要に応じて随時相談を受け付けました。



COG チャレンジ!!オープンガバナンス応募

各回講座概要

〔公開講座〕 持続可能な地域づくりと人づくり ・OBOGの活動



日時:6月22日(土)14:00-17:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:約50名
講師:大畑伸幸
大学院2023修了生

〔第1回〕 開講式/オリエンテーション



日時:7月6日(土)14:00-17:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生19名、チアーズ6名
内容:開講式・オリエンテーション
アイスブレイク・決意表明

〔第2回〕 グループ分け・地域調査と分析



日時:7月31日(水)18:30-21:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生25名、チアーズ4名
講師:稲垣暁・宮道喜一
内容:地域を知る・課題仮設づくり

〔第3回〕 地域調査と分析・課題設定



日時:8月20日(火)18:30-21:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生25名、チアーズ4名
講師:稲垣暁・宮道喜一
内容:取組状況共有・課題設定

〔第4回〕 地域課題×活動の魅力



日時:9月24日(火)18:30-21:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生28名、チアーズ8名
講師:永田宏和
内容:取組状況共有・課題設定

〔第5回〕 企画づくり強化合宿&中間発表



日時:10月5日-6日(土・日)
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生27名、チアーズ7名
内容:みんなワークショップ
企画づくり・中間発表

〔第6回〕 共感を広げるコミュニティ・ オーガナイズ



日時:10月16日(水)18:30-21:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生28名、チアーズ6名
講師:安谷屋貴子
内容:COについて・ストーリーづくり

〔第7回〕 企画ブラッシュアップ/発表準備



日時:11月5日(火)18:30-21:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生28名、チアーズ6名
講師:石垣綾音
内容:ブラッシュアップ・プレゼンのコツ

〔第8回〕 最終成果発表/修了式



日時:12月7日(土)14:00-17:00
会場:なは市民活動支援センター
参加:受講生29名、チアーズ8名
内容:企画プレゼンテーション
修了式

相談会

講座外で自主ゼミ(相談会)を実施した他、データ活用勉強会も開催



COG 応募

講座終了後、COGチャレンジ!!オープンガバナンスに3チームが応募



最終成果発表（アクションプラン）

古島あしびなー



【対象校区】松島小学校区

【メンバー】

稲嶺 ちひろ・金城 文雄
瀬川 辰彦・出口 由香
照屋 静香・又吉 盛太

子どもを真ん中に置いて多世代が主体的に関われるプレーパークをつくる！

■誰のどんな課題か？

松島小学校区内の小学生を対象に、「決められたルールがなく、自由にあそべるばしょ」をつくることで、「子どもの集まれる場所がない」という課題を解決します。

■企画内容

「最近の子どもたちは、ルールに縛られて自由に遊べない」そういませんか？ 私たちの調査した松島小学校区は、公民館・図書館、児童館がありませんが、7つの公園に恵まれ、「子どもの集まれる場所」としての可能性を秘めています。本企画では、松島小学校に比較的近く、自然等豊かな資源を有する古島の「大神公園」にて、子どもたちの自己実現と創造性を最大限に引き出すプレーパークを実施します。今後はプレイベントを複数開催し、子どもたちの声を取り入れることで、みんなが本当に求める遊び場を創り上げます。子どもたちを中心に、その周りの大人たちも協力して楽しみながら関わり合う機会が地域で継続的に生み出されることで、希薄化する地域コミュニティが再び活性化される、そんな「ワンダフルジマ！」を広げていく第一歩として、本企画を提案いたします。

アーバンおろく



【対象校区】小祿南小学校区

【メンバー】

城間 真愛子・古澤 さや夏
松川 静江・宮城 駿雅

防災・防犯でつながる地域のオープンチャット

■誰のどんな課題か？

垣花小学校区では自治会とPTAのつながりがほとんどなく、防災への関心はあるものの、地域住民として連携した動きが取れていないのが現状。そこでテーマを防災・防犯にしばって、これにより地域住民がゆるやかなつながりを持ち、いざという時にも地域で使えるツールとなることを目指す。

■企画内容

この計画は、地域住民が防災・防犯情報を共有し、安心して暮らせる街づくりを目指すオープンチャットの導入・普及を目的としています。オープンチャットを活用してもらうための高齢者スマホ教室や地域イベントでのPRを1年を通して企画し、参加者を増やしていく計画です。企画としてはスタンプラリーや防災コンテストなどがあります。コアメンバーの定期的な進捗確認や地域住民からのフィードバックをもとに運営を改善し、地域全体で防災・防犯意識を高める仕組みを構築したいです。

最終成果発表（アクションプラン）

新都心チーム



【対象校区】 安謝小学校区

【メンバー】

天久 若奈・照屋 友世

安心して暮らせる町づくり

■誰のどんな課題か？

安謝地域の65歳以上の高齢者における災害時の避難行動に関する課題解決の企画、及び対象者ニーズ調査を継続して行います。周辺自治会への聞き込みで「避難経路が曖昧」との声や、昨年度の安謝避難訓練で地域参加者から「照明が少なく夜間の避難に不安がある」との声（日本赤十字社沖縄支部HP記事）が挙がっています。

■企画内容

「高齢者の方が安全に避難ができることを目指した企画」として、避難経路を明確化にする為の避難地図作りを実施します。また、対象者である「高齢者」のイメージは、人によって様々で、自由に動ける元気な方もいれば、足腰が弱く動きに制限が必要な方など、対象者イメージをより明確にする必要があります。今後は「高齢者の災害に対する困り感を把握し、ニーズに添った企画立案」に向けて、高齢者の全体像を把握するインタビューなどのニーズ調査を継続していきます。

チームカラース



【対象校区】 壺屋小学校区

【メンバー】

崎原 有希・長嶺 亜紀子
屋良 栄作

まちぐわーサインでつなぐ地域と未来！ まちぐわー彩発見プロジェクト！

■誰のどんな課題か？

観光客が多く訪れる商店街ですが、地元住民の6割以上が足を運ばず、地域への愛着や繋がりが薄れています。また、迷路のような商店街は地域住民でも迷うことがあり、観光客を案内するのが難しい側面も。本企画は、写真撮影や既存のサインを活用した仕掛けを通じて、商店街の魅力を発見し、地域住民が観光客を自然に案内できる人財を育成します。

■企画内容

「まちぐわーサインで遊ぼう」という名の通り、迷路のような商店街を舞台にした「あしびー(遊び)」を提案します。

<ゼロステップ：フォトロケハン>

カメラマンや地元住民らが参加し、アーケード街の雰囲気や活気を写真に収めるイベントを実施。この写真をもとに次の企画を具体化します。

<ステップ1：「お写んば会」>

学生やカメラ好きが参加するフォトウォークイベントを開催。撮影された写真から「これぞ商店街!」という作品を選定し、写真マップやアーカイブを制作します。

<ステップ2：繰り返しのイベント開催>

1. 商店街の雰囲気を知る
2. 魅力に触れる
3. 歴史・文化・人に触れる
4. 自然と商店街で遊ぶようになる

<最終ゴール>

1年後には、防災や案内に役立つ「色・アルファベット・数字」を組み合わせたまちぐわーサインを確立。商店街活性化と地域づくりを推進します。

最終成果発表（アクションプラン）

夕陽をみる会



【対象校区】天妃小学校区

【メンバー】

天久 啓子・池田 正美
瀬名波 奎・宮里 多美子

三重城海岸の夕陽を映えスポットへ！ ～地域が繋がる憩いの夕陽～

■誰のどんな課題か？

地域で助け合う機会が減っている中、那覇西地域にある「三重城海岸」を活用し、様々な企画を定期的で開催。地域にあまり認知されていない三重城海岸を、地域の憩いの場、地域が繋がるキッカケの場にしていく企画。

■企画内容

夕陽が綺麗な「三重城海岸」を映えスポットとして地域の人達が繋がれる憩いの場になるようなイベントを定期的で開催。企画実現の一步として、地域や訪れる人にアンケートを実施。「写真コンテスト」や「星空を見る会」なども検討。アンケートや企画を通して三重城海岸の認知もあげていき、地域における憩いの場として三重城海岸を定着させる事で、地域が繋がるキッカケになれると考える。

すばんちゅグループ



【対象校区】城北小学校区

【メンバー】

嘉手川 航汰・川口 千賀子
喜納 ひろみ・金城 眞徳
玉那覇 善秀・当真 祐司

「すばんちゅ」 ～そばを打って、人生いきいき～

■誰のどんな課題か？

城北小学校区に住む高齢者の方々の活動の場が少ないという声を受け、高齢者の居場所づくりとして地域との交流や体を動かし健康づくりに繋げる企画をします。校区全体で取り組む行事やイベントなどの活動がない現状や、首里地域で唯一小学校区まちづくり協議会もない状況に対する変化も期待しています。

■企画内容

沖縄のソウルフードである沖縄そばを地域の高齢者の方々に手作りをし、そば作りを通じて地域と繋がろうじゃないか、という取り組みです。3つのステップに分けて実践することで、高齢者の方々の居場所づくり・高齢者と子どもたちや地域の方々の関わりづくりを目指します。城北小学校区は、平良町、儀保町、久場川町、赤平町、石嶺町1・3丁目の5つの町に分かれており、高齢化も進んでいます。その中で、私たちは高齢者もいきいき活動する機会が不足しているという声を解決するためにこの企画を考えました。

最終成果発表（アクションプラン）

すいワイワイwifi プロジェクト



【対象校区】城北小学校区

【メンバー】

砂川 恵太・平良 良竹
高良 空旺・森田 翔子

Wi-Fi× リアル交流プロジェクト 「すいワイワイ wifi プロジェクト」

■ 誰のどんな課題か？

このプロジェクトは放課後や休日に集まる場所が不足し、オンラインゲームやSNSでの繋がりに偏りがちな子どもたちの課題を解決します。Wi-Fiを活用しながら、リアルなコミュニケーションを中心とした交流や活動を促進し、家に籠らず外に出たくなる場を提供します

■ 企画内容

Wi-Fi×リアル交流プロジェクト「すいワイワイwifiプロジェクト」

Wi-Fiを活用しながら子どもが楽しめるイベントを開催します。Wi-Fiを利用したオンラインクイズ大会や協力型ゲームを通じて、子どもたちが自然とリアルな協力や交流を体験できる場を提供します。その後、手作り工作やスポーツ、地元の方によるワークショップなど、アナログ活動で多様なコミュニケーションを促します。

最終成果発表会&修了式



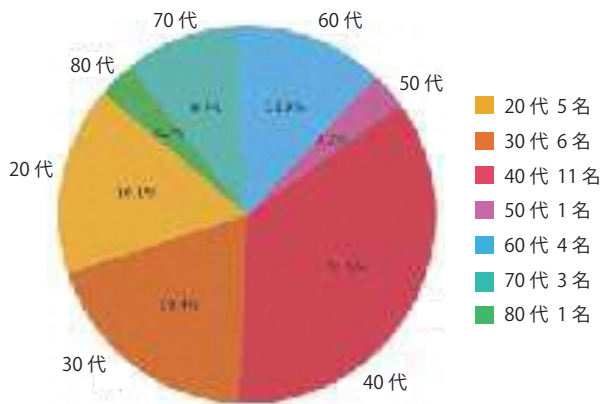
受講結果

●受講生について

受講生募集については、チラシや那覇市ホームページの他、SNS等を活用し、周知に注力しました。その結果、30名の申し込みがあまりました。世代や属性は幅広く様々で、新規受講率は100%でした。受講生は、すでに地域活動を行なっている方がほとんどで、「なは市民協働大学」の上級編としての位置づけどおり、地域の実情に即した実践的な取り組みを行うことができました。各講座の振り返りを行えるように、資料や動画を公開しました。今年度は、受講生30名に対して96.7%となる29名が修了しました。また、修了後のアンケートにおいて、「今後の自身の活動において生かされると思うか」という問いに対して、「とても思う」「そう思う」と肯定的な回答が100%を示しました。

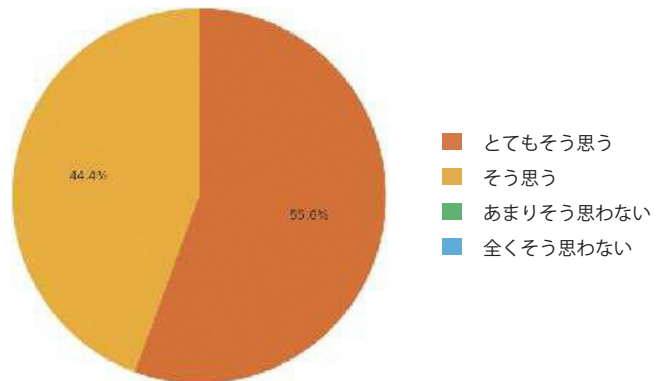
修了生 29名 / 受講生 30名

【受講生の世代】



【修了後アンケート】

Q. 本講座で学んだことは、今後のご自身の活動において生かされると思いますか？



●受講生の声

良かった点、印象に残ったこと

- ・地域で活動している方々と知り合えたこと、ネットワークが出来て良かったです。
- ・最初はただワクワクする企画を考えていましたが、講座の中で「困っている人は誰か」と言われたのが印象的でした。一旦立ち止まって考える機会をいただいた気がしましたし、より難しくもなりました。
- ・永田さんのお話が面白かった。県外から沖縄にあのような方を講師として招くことができるのは、なは市民協働大学院のいちばんの魅力(特色)なのではないかと思います。
- ・メンバーの性格が違っていても話し合いや聞く姿勢ができていれば楽しくできると知った。

本講座を通じて学んだことや変化

- ・企画を立案するにあたり、年代、性別やスキル等、本当にさまざまな方々がいる中でのプロジェクトを進める難しさや楽しさを学ぶことができ、本当に勉強になりました。
- ・協働という考え方、がんばらない地域づくり、お隣さんをほっておかない、楽しく過ごせるまちづくり、人と繋がる楽しさ、また改めて感じることもばかりでした！
- ・自分の強み、自分だけでやらなくていい、話し合うことの大切さを再認識。
- ・地域を知って、声を聴いて、行動する、経験ができたことが1番の学びでした。